

都心集中豪雨

災害発生日・平成17年9月4日～5日

主な被災地・関東地方

首都東京を襲った時間雨量100mm 護岸崩落、地下浸水など被害続出

ゆっくりと勢力を保ちながら動く台風14号が、日本列島に停滞していた秋雨前線を刺激、都心部に集中豪雨をもたらした。

9月4日夜から5日未明にかけ、都内および近郊で洪水被害などが続発した。

台風14号が秋雨前線を刺激 都の想定を超える雨をもたらす

9月4日、台風14号が関東地方北部から中国地方北部にかけて停滞していた秋雨前線を刺激。5日未明にかけて都心部に集中豪雨をもたらした。

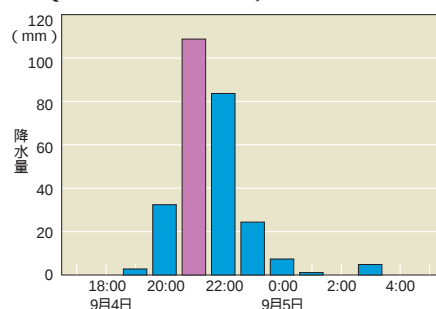
都心部での翌5日6時までの24時間総雨量は、東京都練馬区で242mm、杉並区で240mm、三鷹市で225mm、24時間

のうち最大で1時間に100mmを超す集中豪雨があった。

東京都が整備対象とする46河川については、1時間に50mmの豪雨を対象として治水整備を進めてきた。しかし、今回の集中豪雨はその倍の雨量で、都の整備事業の計画以上の雨だった。

1都2県で浸水被害多発 夜中に避難命令も

■ 9月4日から5日の都内降雨状況
(東京都下井草観測所)



[資料提供 / 東京都建設局河川部]

集中豪雨で首都圏各地に被害が出た。東京都では中野区、杉並区などで床上・床下浸水等が6754棟だった。埼玉県ではさいたま市や蕨市などで床上・床下浸水が1581棟。神奈川県では横浜市や川崎市を中心に90棟が床上・床下浸水し

インタビュー Interview



楽しんで行う日頃の訓練が役立った

— 遊びの中から防災意識を高め、いざという時に備える —

西島 昭雄氏・桃井第三小学校「おやじの会」初代会長

9月4日、東京都杉並区の善福寺川が氾濫した際に、桃井第三小学校「おやじの会」では日頃のコミュニケーションと訓練の成果から、迅速な避難誘導ができた。その秘訣について「おやじの会」初代会長・西島昭雄氏に伺った。

●「おやじの会」発足の経緯と組織について教えてください。

今から10年前。当時の校長先生と教頭先生から、夏休みの校庭を使って親と児童が交流する場を設けられないかと持ちかけられたのがきっかけです。親と児童の会ということで「おやじの会」となりました。発足時に、PTAとは別の組織としてイベントをやらせてくださいとお願いしました。親子のコミュニケーションを主眼に地域と密着した会を目指したのです。現在は25人程度の父兄が中心になって活動しています。

●災害当日の状況を教えてください。

善福寺川の近くに住んでいる方から、川が氾濫していると連絡が入りました。すぐに「おやじの会」のメンバーに召集をかけ

る一方、小学校の防災倉庫、体育館の鍵を開けて避難場所を確保しました。その後、地域全体が停電になり体育館の電源も切れてしまったのですが、防災倉庫に何があるのかを知っていたので、発電機を動かして急場をしのぐなど、日頃の訓練が役立ちました。

●日頃の活動は、どのようなことをされていますか。

「おやじの会」は、1年中行事があります。地域の祭りへの参加や清掃活動、親子で料理＆スポーツ大会など様々です。

●防災訓練への取り組みについては、いかがですか。

夏のキャンプは、楽しみながら防災意識

を高めるという趣旨で行っています。防災倉庫にある食材やテントを使って校庭で宿泊するのですが、火の起こし方や水のろ過方法を教えたりして、遊びの中で経験させることを続けています。

また、消防署や区の協力を得て行う、起震車を校庭に呼んでの訓練など、地震などの被災時に備えています。

●今後の取り組み方や、他の方が参考になることについてお聞かせください。

今後は消防団と連動することや、地震だけでなく様々な状況を想定して、遊びの中で訓練をした方がいいと思います。また避難所では、お母さん方の細やかな気遣いが避難者の方を安心させる面もあるので、女性の活躍も必要だと思いました。